



からしだね

2019年11月号
(554号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

畠基幸神父の特別寄稿

新しい赴任地へ向かう「キリストから流れ
出る愛のしるしと道具になれますように」

晴天下のバザーは多くの訪問者で大盛況

教会の大掃除が暑さの中で 9月29日

「聖書における聖マリア」連続信仰講座(1)

大人の日曜学校だより 9月22日

みんなの談話室

待降節黙想会は11月24日

ドレミの会からのお願い

表紙の絵について

年間カレンダーに追加された行事予定など

研修委員会からのお知らせ

特別寄稿

新しい赴任地へ向かう 「キリストから流れ出る愛のしるしと道具
になれますように」 (教皇ベネディクト16世教皇回勅「神は愛」から)

島 基幸 C.P.

皆様 11月7日から再びミャンマーへ出かけてまいります。これで7回目の訪問です。そして、今度はついに宗教ビザを取得することができました。これでもう少し長期滞在が可能となります。これから本格的に宣教師として活動を始めることになるかと思えます。

行先は、パテイン教区の聖心小神学校(ミャンチャウン村)です。ここには、日本の中学生と高校生の学年に相当する小神学生が37名います。このキャンパスを囲んで、両隣に聖フランシスコ・ザビエル修道女会と聖フランシスコ・ザビエル兄弟修道会(修道士)があります。女子の方は、150年前にパリミッション会の司教様が創立しました。大阪教区の最初の司教座聖堂川口教会の献堂年(1879年)とほぼ同世代(1870年代)です。ミャンマー最大の女子修道会で450名の会員がいます。ここには、志願者と修練者が50名ほど生活しています。小神学生は地元の公立学校へ通います。上級生はカレッジ(大学の教養学部)入学のため高校卒業後英語の勉強をしています。地元のカレッジに合格した卒業生は、そのまま小神学校に残り、パテイン大学の教養部で学び、哲学部進級を目指します。男子のブラザーの会は志願者と修練者を合わせて10名位です。この会のカリスマと創立趣旨は司祭を助けることを主な目的としていて、小教区の建物管理や車の運転や修理、料理などを学びます。同じキャンパスにメリノール会の司祭が作った職業訓練校もあります。これも公立学校になっています。軍事政権が1965年以降は、教会の財産である学校や病院を没収したので、小神学校の敷地内ですが政府の学校になっているのです。

そして、私たちが住む4階建ての大きな建物が敷地中央にあります。これは神学生のカレッジと哲学生の校舎でしたが、政府に没収されるのを嫌って廃校にしたとのこと。時たま、研修会や黙想会に使われます。一階には引退した司祭二人と建物管理やカフェテリアの食堂の賄さんの家族が住んでいます。私たち先遣隊は、3名ですが、インドネシアからの1名はまだ派遣準備が整わないので来年になる予定です。今は、インドのソニー神父と私が4階にある客人用の5部屋を借りて、修道院

に改造しました。聖堂の壁にカーテンを垂らして聖堂らしい雰囲気に変え、洗面器を台所用のシンクに変え、シャワーに温熱器をつけました。LPガスボンベとガスコンロも使用許可を得て設置し、自前で料理ができるようになりました。これから改造しなければならないのは、屋上にある水タンクです。コンクリート製で蓋が落ち込んで壊れているので雨水が混ざります。電線が古いので雨が降ると停電しますので、4階まで水をくみ上げるポンプが止まり、水が出ない日が何度もあります。この水でシャワーを浴びたり、洗濯用の水にしたり、食器を洗ったり、水洗トイレに使ったりするのです。このタンクをステンレス製のタンクに交換したいと申し入れてもなかなか理解してもらえないのが悩みです。公衆衛生の感覚の違いですね。飲み水は、消毒した井戸水を買います。60リットル200円。安いですよ、物価は。



写真の説明

校庭の中央奥にある建物の4階右側のウイングが御受難会の修道院。3個室、居間、台所と聖堂から成る。2階、3階は宿泊棟と聖堂。1階と4階の左側のウイングは80名ぐらい入れる講壇付きの講義室。

写真に写る人物はソニー・マスリン神父です。ソニー神父の名前はSonyで会社名と同じです。兄妹が皆、Sで始まる名前、お父さんは船乗りで日本にも立ち寄りたり、日本のおもちゃをたくさん買ってくれたそうです。

小神学校で私たちに期待されていることは、小神学生たちに英語を教え、シスターの志願院や

修練院で霊的講話をすること、ブラザーの会の志願者たちに英語の基礎を教えることです。黙想指導で来た御受難会員は、西欧人、オーストラリアやアイルランドの会員だったので、当然西欧人が来るものと思っていたらしいのですが、現れたのはインド人と日本人、あのインパール作戦で英国軍と戦ったインド軍と日本軍の末裔だったので驚いたに違いありません。しかも、日本人はビルマ族と一緒にになってカレン族を弾圧したのです。

ソニー神父は、オーストラリアで英語教師の国家資格を持っており、さっそく英語の先生として活躍、またインドでも人気ある説教者なので、こちらでも教区黙想会や神学生黙想会の申し込みを受けています。私はといえば、英語も自由ではありませんので、修道院に引きこもって、ビルマ語(ミャンマー語)を勉強したり、ラテン語を勉強したり(週一回はラテン語ミサ)、そして日本語の勉強をしたりしています。また料理の勉強もしています。この教区の司教様はカレン族の酋長のようで、色白で日本人とほぼ同じ顔と体格をしておられます。ご本人も日本びいきで、東京教区のミャンマーの日には招待されたこともあり、日本との交流を待ち焦がれておられたのです。ミャンマーの経済特区にトヨタなど日本企業が誘致されたので、ここ数年で、日本語学習者の数が20位から10位に躍り出ました。

私自身は宗教ビザが取れないので日本語教師になるために勉強を始めましたが、宗教ビザを取得できたので、日本語は必要なさそうですが、日本人のわたしがいるということだけでパテイン教区は新しい可能性に目を開き始めています。

昨年、池田教会有志の皆様をはじめ日生中央教会や家族、恩人、友人からサバチカルの餞別をたくさん頂いたお陰で、ミャンマーへの7回の訪問も日本語教師検定のための学費も捻出することができました。日本語教師になるための学費は五十万円を超える高額のものでしたが、宣教の準備のためによい勉強になりました。実際に検定試験に合格し日本語を教える機会はないかもしれませんが、にもかかわらず、勉強した科目がとても宣教のために役立つ内容だったのです。語学の基礎になる音韻論や音声論の知識、異文化理解の心理、語学習得の理論、対照言語学などが、よい準備になりました。皆様に本当にお世話になり、感謝しております。以前話した内容は、カルチャー

ショックの初期症状です。ハネムーン期ですね。猫やネズミの肉を食べることなどカルチャーショックですが、ビルマ人に聞くと、猫の肉を食べると猫になるから絶対に食べませんと叱られました。ああ、ビルマ人は仏教徒で輪廻転生を信じている国民なのだ。そうすると、ビルマ族のカレン族に対する差別意識はここにあるし、植民地時代にはビルマ族が植民地政府の奴隷にされてカレン族の官僚のもとに抑圧されていたという歴史問題のことは苦々しいものでしょう。過去の歴史問題の処理は、まだこれからのことなのでしょう。宣教師には、カルチャー・アウェアネス(異文化に接触して、改めて自分の文化的価値観に気づくこと)が求められる。多民族国家のミャンマーは、少数民族との内紛で世界の縮図のようですが、相互理解、共生社会をいかに構築するか、その将来のビジョンを聖書のことばを紐解きながら彼らと共に生きていく道を模索したいと思います。

ちょうど宣教の日(10月13日)、ミャンマー(旧ビルマ)で亡くなったアルフレッド・クレモネシ神父(PIME一教皇立外国宣教会、俗称ミラノ会)が生まれ故郷のロンバルド地区クレマ教区にて新しい福者として列福されました。1949年英国植民地政府から独立後、カレン族が新政府に対してビルマ族主体のナショナリズム(一つの国、一つの言語、一つの文化、一つの宗教)に対立し、その後武力による内部抗争が60年間続いたことを、前回までの記事で少し触れましたが、その初期の1953年2月7日、PIMEの最初の司牧地区の村の小教区にいた神父は、カレン族ゲリラを追って入村したビルマ国軍の兵士によって村長と少女二人共に銃殺されました。殉教者としての列福です。

このパテイン教区にも、戦争中や戦後にパリミシンの司祭やミラノ会の司祭が殺害された過去の事件がたくさんありました。これからも列福される殉教者が続くと思われます。まだまだミャンマーの多数派のビルマ族には宣教師に対するアレルギーがあり、長期の宗教ビザ取得は困難です。どうかこの国のために皆様のお祈りをお願いします。今もまだ殉教者の血が流される土地なのです。

晴天下のバザーは多くの訪問者で大盛況 10月20日



バザー2019

We are happy to serve you

～私は仕えるために来た(マルコ 10:45)～

日時 2019年10月20日
10:20 ~ 13:30

場所 カトリック池田教会
カール記念館

同時開催: まりあまつり(カトリック聖アリア幼稚園)
10:00~13:00

Hollo! I am Fr NONOY.
Please be there at our
Bazaar. Enjoy!
バザーにお越しください

おでん・おにぎり・カレーライス・ホットフランク・
手作りケーキ・紅茶・コーヒー・のみの市・古着

収益金の一部は以下の団体に寄付予定です
大阪教会管区大船渡プロジェクト、福島診療所建設資金、(公)みちのく未来基金、NPO法人コムニタス、NPO法人ノア、NPO法人RASA、ともに歩む会、
ハイチ友の会、インドへ友愛の手を
主催: カトリック池田教会バザー実行委員会

バザー実行委員会のポスター

10月20日に恒例の池田教会バザーが開かれました。3時間余の短い時間でしたが、御受難修道会の染野治雄神父や同時開催のカトリック聖マリア幼稚園やドレミの会の関係者ばかりではなく近隣の住民や北摂地区の他教会から、多くの人々が池田教会を訪れました。

門から入って直の大きな天幕の下で中高生会が「釣り堀」を開設。ぬいぐるみやペンダントなどを釣り上げるゲームは人気があり過ぎて早々と店仕舞いしましたが、中高生会から引き継いだ綿菓子保存会が提供する綿菓子は今年も好評で、求める親子連れの行列は左手にある聖堂入口を抜ける程長く続きました。

右手のカール記念館(2階建て)の玄関から入った左が、釜石を主とする東北地方から届いた特産物コーナー、右のブースは「東条湖の家」による賛助展示で、家で暮らす仲間たちが笑顔で迎えてくれました。それらの奥では、故デニス神父が40年前に始めたホットフランクの焼き立てを子供たちが待っていました。

一階奥の食堂ホールには、地区委員会のブースで恒例となっている熱いおでんとおにぎりが供されていて、夕飯の分も買い求める方も居られました。窓際には、多種多様なケーキとクッキーが五つの長テーブルにところ狭しと並べられ、いずれも姿好く、おいしそうで、いつも多くの人で賑わっていました。種類が半端でないの、ケーキ類はホール中央の席に就いて味わい、堅いクッキーはお持ち帰り用と気付くことが肝腎。コーヒーとティー、お抹茶もオーダーできて、ホール中央の喫茶室で賞味して、昔話に花を咲かせることもできました。

2階に上がった左の和室二間をぶち抜いて畳にビニールを敷いて子供服と婦人服が折り畳んで並べられていました。廊下には新品同様の婦人靴と子ども靴がありました。

2階右の会議室は蚤の市。テーブルに並べられているだけでなく、袋物は段ボールに入れられているから探すのに時間がかかるようでした。会議室の一角にあるのは食器や茶器の新品で、目指すものを見つけるのが楽しそうです。吹田から訪れた成人男性も酒器を見つけた? 装飾品はこれこそ宝さがしでした。

これらブースでの収益の一部は以下の団体に寄付されます。

大阪教会教区大船渡プロジェクト、福島診療所建設資金、(公)みちのく未来基金、NPO法人コムニタス、NPO法人ノア、RASA、ともに歩む会(在シエラレオネ国)、ハイチ友の会、インドへの友愛の会。

教会の大掃除が暑さの中で 9月29日

カトリック池田教会は北摂地区の司祭と信徒の福音宣教活動のセンターの一つとして、毎日のミサや黙想会、講演会、バザーなどに地区内外から多くの方々を迎える。美観と安全を維持するために、8月の聖堂のワックスがけ、館内の日常的な床清掃やごみ処理、トイレの掃除は多くの信徒が交代で担当しているが、それ以外の大掃除を、毎年、総出でバザー開催前に実施してきた。本年も9月29日に主日のミサ終了後の10時から12時頃に掛けて総務委員会の計画の下で50人程度の協力で行われた。

今年の掃除の対象は聖堂とカール記念館のガラス窓の清掃、多様な使われるキッチン、和

室の布団類の天日消毒、敷地の通路・庭園、外回りの草抜きだ。この日の最高気温は32°Cとなっていたせいか、汗拭きながらの作業だったが、新調された2種の窓拭きモップと根切り鎌が有効だった。

総務や社活の方々が用意したちらし寿司やおむすびなどの軽食とお茶、菓子類を楽しみながらの団欒が13時過ぎまで続いた。

足の踏み入れようがなかった中庭や聖堂の東壁周り、聖堂と司祭館の西側部分が視線の届くところとなった。横の公道を通る人と教会への来訪者に対しては、花壇なのか通路なのかをはっきりさせたい。



上：西側公道は金網フェンスなので雑草が抜かれた地面には小さな草花か敷石が欲しい。

下：東側公道に面するカイズカイブキの生け垣は奥のカール記念館側より樹高は低く、樹勢はかなり乏しい。古株が人の通り抜けを拒んでいる。



上：司祭館への通路から見た中庭。雑草が抜かれた地面は排水が悪いのか湿っている。

下：聖堂のガラス戸から出てカール記念館の方を見ると、通路に近い処でないと秋分後では陽が射さない。



「聖書における聖マリア」

連続信仰講座(1)

北摂地区の連続信仰講座の第1回が9月16日午後2時から、池田教会の聖堂で行われた。講師は高槻教会の清川泰司神父様である。北摂地区から信徒が120名あまり参加して、清川神父様の2時間に及ぶ関西弁交じりの講義に聞き入った。

清川神父様は「聖書における聖母マリア」というタイトルで、聖書に出てくるマリア像を検証しながら、神のみこころを再確認し、私たちが福音宣教への道を歩むように導かれた。

清川神父様によると、人間は神の愛を理解できず、自分の浅はかな価値判断に頼ったため、楽園を追われた。それでも神はみこころを人間に理解させるため、その後アブラハムを選び、イスラエルの民を選んだ。そして神は満を持して、神のみこころの実現、神の国の実現のために、イエスを地上へ送られた。その協力者となるのが聖母マリアである。マリアは幼いころから旧約聖書に親しんでいたため、神の計画を理解した上で、イエスの母となることを受け入れた。自由意志で受け入れ、神の協力者となったので、カトリック教会は聖母マリアを「信仰の模範」、「新しいエバ」と呼んでいる。イエスの十字架上の死のあと、ご復活とご昇天を目の当たりにした聖母マリアと12使徒との働きで、聖霊の導きにより、キリスト教共同体が生まれた。今でも私たちはご聖体を頂くことで、人類が兄弟姉妹となることを望む神のみこころと一体になる。そのみこころを人々に伝えることで、私たちもまた神の協力者となるのだ。

今回の講義で、私たち信徒は聖母マリアについて、祈りを取り次いでくださるやさしい御母としてだけでなく、聖母マリアのもう一つの役割もより深く理解できるようになった。

Y. N.

大人の日曜学校だより 9月22日

本日の福音はルカ福音書 16章の1節から13節であった。

「不正な管理人のたとえ」を分かち合う中でわからないという声が今回は多数あった。「不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた」「不正にまみれた富について忠実でなければ…」とあるが、一体どうなのだろうか等の疑問が出た。

そこで9月27日(金)の「福音書を学ぶ会」で神父様にお尋ねした。

神様の目から見ると、お金や富は不正の源になることが多く、良いとは見られていないが、良い方向で使えば良いのではないかとお教え下さった。人間世界からの見方をすれば真面目に労働して得たお金や富は、そんなに悪く思えず、搾取る側とは訳が違うと考えてしまいます。

聖書のわからない個所でわからないと言い合う場や仲間があったり、また学びの場があることは大変幸せなことだと思います。これからも皆さんと研修を深めていけたらと思います。

研修委員会

みんなの談話室

御礼

久保 昌子

クリスマスカード作りにご協力いただき、本当にありがとうございました。この夏、南アフリカを訪れ、カードを手にする子どもたちの姿を見て、改めてこの活動が子どもたちに与える力を感じました。

今後も、一人でも多くの方に参加いただき、祈りの力で子どもたちを支えていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2019年9月30日

11月のガラスケースのことば
人の子は、失われたものを探して救うために来たのである

ルカ 19・10

待降節黙想会は 11月24(日)

王であるキリストの祭日(11月24日)に開かれる黙想会にカトリック箕面教会の矢野吉久神父様が黙想指導者として来られます。

研修委員会

ドレミの会からのお願い

12月14日(土)ドレミの会のクリスマス会が行われます。バザーが終わったばかりで恐縮ですが、もし、お家にプレゼントにふさわしい小物等がありましたら、ご寄付ください。使っていないものをお願いいたします。

今、ドレミの会は30名ほどのハンディーを持った方が参加しています。年齢は、中学生から、50代くらいまで幅広く、おもに20代、30代が中心です。男性、女性は半々くらいです。男性物など大いに助かります。

12月13日(金)まで受け付けております。カール記念館1階の和室に段ボールの箱を用意いたしますので、その中にお入れください。

毎年皆様のあたたかなご寄付のお陰で、楽しいクリスマスを迎えることができ、スタッフ一同から感謝しております。よろしく願いいたします。

表紙の絵について

16世紀のブラマント公国(オランダ)の画家、ピーテル・ブリューゲル1世が1563年に制作した「バベルの塔」である。創世記11章1-9に書かれている物語に基づいている。ブリューゲルは建設途中のバベルの塔の絵を少なくとも3枚は描いたとされ、ボイマンス美術館が所有している1枚は、2017年に大阪の国立国際美術館で展示され、その細密きわまりない描写に鑑賞者は驚嘆したものだ。これはウイーン美術史美術館所蔵のもので、最も優れた作品と言われている。

(Google art projectのpublic domainより)

年間カレンダーに追加された行事予定など

11月7、14、21、28日(木) 10:30 ~
聖書百週間

11月8、22日(金) 14:00 ~ 16:00
福音書を学ぶ会

11月24日(日) 9:00 ~ 待降節黙想会

研修委員会からのお知らせ

8月4日に平和旬間行事として朗読された絵本「難民になったねこ クンクージュ」をカール記念館2階廊下の図書にしています。貸出していますのでどうぞご利用ください。

宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

■ 日帰り黙想会

11月28日(木) 10:00 ~ 15:30

指導:山内十束 神父

11月29日(金) 10:00 ~ 15:30

指導:山内十束 神父



■ 週末黙想会

11月16日(土) 17:00 ~ 11月17日(日) 15:30

指導:山内十束 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

編集後記

「実りの秋」は一年草の植物に譬えて、これまでの日々の積み重ねが結実する時の到来を祝っている。その結実に半年の期間で十分なのが一年草だが、一人の人間なら60年の期間がかり、蟬が子を産むなら7年、聖堂の耐震化なら2年、それぞれ必要のようだ。

本号のトップにある特別寄稿では、一昨年に池田教会から去った畠神父様がミャンマーのパテイン教区にある聖心小神学校に隣接したところにある建物の一部を修道院に改造したと記されている。そして、これまでに特別寄稿に書いたのは神父様のカルチャーショックの初期症状であって、宣教師にはカルチャー・アウェアネスが求められる。多民族国家のミャンマーにおける少数民族間の内紛は世界の縮図であり、相互理解、共生社会を如何に構築するか、その将来のビジョンを聖書のことばを紐解きながら彼らとともに生きて行く道を模索したいと修道院の改造時の決意を語っている。

インマヌエル